DBKだより

ドン・ボスコ基金

2016年1月1日　第16号

発行人:マリオ山野内倫昭

恩人の皆様

新しい年が始まりました。この一年が喜びと平和に満たされますようお祈り申し上げます。

昨年も皆様からのご寄付によって、ボリビア・南スーダン・シエラレオネのエボラ出血熱・ネパール大地震被災者・ミャンマー洪水被災者など援助を必要としている多くの人々に手を差し伸べることができました。皆様の温かいお気持ちに心より感謝を申し上げます。本当に有難うございました。

サン・ピエトロ大聖堂の「聖なる扉」の前で

サレジオ会とサレジオ家族は、二〇一五年八月十六日に創立者ドン・ボスコの生誕二〇〇周年を迎えました。その日を迎える準備として三年に渡り、その生涯・教育・霊性を学び、若者と共に特に貧しい若者のために生きる決意を新たにしてきました。ドン・ボスコの精神は今も生きており、私たちは立ち止まることなく、神の愛を実践しなければならないことを確認しました。

教皇フランシスコは、二〇一五年十二月八日（無原罪の聖母の祭日）から二〇一六年十一月二十日（王であるキリストの祭日）までを「いつくしみの特別聖年」と定め、昨年の十二月八日にバチカンのサン・ピエトロ大聖堂の「聖なる扉」を開きました。ローマだけではなく日本にも各地に指定された教会があります。そこに巡礼するなどいくつかの決められた条件を満たすと「免償」を得ることができます。免償を通して神のいつくしみに満たされた私たちは、神のいつくしみを人々に行うことが望まれます。

教皇は「御父のように、いつくしみ深く」と特別聖年のモットーを掲げられました。人を裁かず、罪に定めず、ゆるし、愛を与えること。社会において疎外された弱い人々に心を開くことを勧められ、生き方を変える機会とするよう呼びかけています。

父なる神の無条件の愛、特に貧しく世間から見放された小さき者に向けられた愛を思い起こし、今年も活動に取り組んでいきたいと思っております。

二〇一六年　元旦

代表　マリオ 山野内 倫昭（みちあき）神父

いつくしみの特別聖年
公式ロゴマーク

支援のお願い ベトナムの ドン・ボスコ・シェルター

ベトナムでは、社会の発展と共に身体の不自由な人や知的に遅れのある人が社会の負担だと見られる傾向が生じています。それはこの半世紀、唯物論的思想を教育された結果で、それらの人々を疎外する社会となりつつあります。

そこで、ベトナムのサレジオ会は、そのような環境にある青年をドン・ボスコ・シェルターに呼び集め、人間らしい生活と家庭的な愛に包まれて過ごすことができるようにと活動を始めました。青年たちは、サレジオ会員とスタッフの助けを受けながら自分たちで自炊し、出来ないことは互いに助け合い補い合いながら歩んでいます。現在、十七歳～三十歳の男女二十五名が一緒に生活しています。シェルターは訓練所としての機能も備え、仕事を習うことが出来ます。下半身の不自由な人は椅子に座ったまま出来るパソコンの使い方を学び、外部から注文されるウェブサイトの作成、画像の修正に挑戦しています。ミシンの使い方も教えていて、足拭きマット作りに挑戦し、販売もしています。これらを外国に販売できるようなレベルまで向上させたいと思っています。パソコンもミシンも使うことができない人は紐でビーズを通し、簡単なキーホルダーなどの作成に取り組んでいます。

持ち帰った作品

品物が完成する喜びを知り、自分にもできることがあるのだと感じることで生きる自信が湧いていきます。日本では多くの福祉施設やNPO法人などがすでに実行していることですが、まだまだベトナムでは支援が乏しく、多くの人たちが自分の居場所がなく取り残されている状態です。

このほど、学習と仕事用のパソコン三台が老朽化していて度々故障すると聞きました。パソコンを寄付することで協力出来たらと思い、ドン・ボスコ基金にその援助をお願いします。

＊作業所で作成している商品を一部日本に持ち帰りました。バザーや売店などのよい機会がありましたら、ドン・ボスコ・シェルターのために販売して宣伝したいと思っています。

春山ミカエル・ラップ神父

支援のお願い アンゴラ

アフリカのアンゴラから支援の依頼が届きました。アンゴラは旧ポルトガル植民地で、公用語はポルトガル語です。サレジオ会では

宣教センター（学校）ようこそ！

センターに来られる生徒たち（大人が多いです）

修理が必要なトイレ

カビンダ、ドンド、カッソアララの郊外で青少年や大人が読み書きなどの教育が受けられるプロジェクトを行っています。三年間で小学六年生のレベルまで習得して卒業します。

ブラジルのサレジオ会から教育システムの指導を受け、テキストも提供されましたがとても不足しています。特に、基礎数学とポルトガル語のテキストが緊急に必要とされています。

最も重要なのは教員の養成です。学校施設と教員の不足により、学ぶことが困難になっています。二〇一五年には、各校で六百人、五百人、九百人の子供から大人（七十五%は女性）が勉強しました。多くの生徒たちは十km、二十五kmと離れたところから通っています。

また、学校の教室や洗面所などの修理が必要で、協力をお願いします。

ボリビアを支援してくださる皆様へ

昨年もDBKの皆様の温かいご支援のお蔭でボリビア管区レベルのプロジェクト並びに気の毒な少年少女たちに愛の手を差し伸べることが出来ました。神に感謝。DBKの皆様に感謝！　今後とも引き続きご支援をお願いいたします。

ボリビアのサレジオ管区も経済的に大変苦しい立場におかれています。昨年の春のこと、サンタクルス市から約二百km離れた森林地帯にあるサレジオ会聖心（みこころ）小教区の主任司祭であり院長である神父から軽トラック二台分のタイヤ八本を是非協力してほしいとの依頼がありました。この聖心（みこころ）小教区の受け持ち地域は二百kmもあり、しかも舗装道路ではないので、軽トラックで森林に散在する共同体を司牧しなければならないのです。ボリビア管区にも依頼したそうですが、日本人からの援助並びにボリビア人からの援助で協力することが出来ました。

左から山野内倫昭管区長と倉橋輝信神父

ボリビアの貧しさについて話せばきりがありませんが、私たちサレジオ会員は福音の喜びに満たされて日夜働いています。

「いつくしみの特別聖年」にあたり、皆様の上にキリストの豊かな恵みといつくしみが注がれますようお祈りいたします。

「私たちはこの世では大きなことはできません。小さなことを大きな愛をもってするだけです。」（マザー・テレサ）

二〇一六年二月二十四日まで一時帰国しています。

連絡先は左記のとおりです。

携帯電話：090-7716-4111
FAX：03-3353-7190
〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12 サレジオ管区長館
倉橋輝信神父

前号で支援をお願いしたKiitos（キートス）から近況報告

最近のニュースとしては、厳しい事情を抱えた若者の中から自分に自信を持ち、大学進学や社会への一歩を踏み出した子どもたちがいることです。中学校に通うことができず苦しんだ一人の男の子は、高校から通い始めて、この春見事大学に合格しました。

教会とのつながりも増え、先日は調布教会聖堂にてチャリティコンサートを開かせていただきました。十二月二十四日のクリスマス・イブには七名ほどのメンバーが深夜のミサにあずかることができ、ある若者にはとても強く心に響く

ものがあったようです。
　昨年マスメディアに取り上げられ、多くの方々にKiitosの名前と活動を知っていただくことができました。そこから新たなご縁ができますことをとてもうれしく思っております。

＊Kiitosは「青少年の居場所」を提供する活動をしています。食費、教材費、光熱費などの運営費の支援をお願いします。

シエラレオネのエボラ出血熱

　多くの支援を受け、何か月にもわたるエボラとの闘いの末、シエラレオネのエボラ孤児のためのセンターは再び学校として再開することになったとサレジオ会西アフリカ管区長ホルヘ・クリサフリ神父から報告がありました。
　親を亡くしてセンターで心身の医療ケアを受けた子どもたちは、親戚や里親の家庭に引き取られます。「サレジオ会として今後3年間、子どもと引き取られた家庭の支援を行い、学校へ通っているか、幸せにしているか確認」し、必要に応じた支援をします。

ネパール大地震被災地

　ネパールでは地震被害の後、政治・宗教的対立が続き、支援体制の組織が円滑に機能しない問題もあり、復興が遅れています。九月にようやく発布された新憲法は、ネパールを非宗教的連邦国家と定め、多数の国民に歓迎されている一方、一部の国粋主義グループの死傷者が出るほどの抗議活動など緊張が続き、各地の教会の焼き討ち事件も起きています。支援が行き届かない山間部などの被災者の救援活動を続けているサレジオ会の事業は、幸い被害を免れています。
　キリスト者は人口の0.5％で、教会は宗教組織として登録できませんが、ドン・ボスコ救援チームの責任者ジョ・ジョン神父は、技術を持たない若い建設労働者の技術研修など復興支援に取り組んでいます。

DBKだより 第16号
2016年1月1日
発行人:マリオ山野内倫昭
発行所:サレジオ管区本部
〒160-0011　東京都新宿区若葉1-22-12
Tel:03-3353-8355　Fax:03-3353-7190
DBK-gia@donboscojp.org

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替　口座番号
00190-5-292253
加入者名
ドン・ボスコ基金